

II 展覧会

- (1) 企画展 平野杏子展 生きるために描きつづけて 1
- (2) 特集展 1950～60年代の日本画－造形への挑戦 2
- (3) 企画展 ザ・キャビンカンパニー大絵本美術展〈童堂賛歌〉 3
- (4) 特集展 つながるコレクション+新収蔵品展 5
- (5) 企画展 藤谷虹児展 7
- (6) 特集展 ひらびー10周年おしゃべり美術館 9
- (7) 特集展 ロビー展 古井彩夏展 11

III 教育普及

- (1) 令和6年度実施プログラム 12
- (2) スクールプログラム 13
- (3) 対話による美術鑑賞事業・ボランティア育成 13
- (4) アートカードの貸出 13

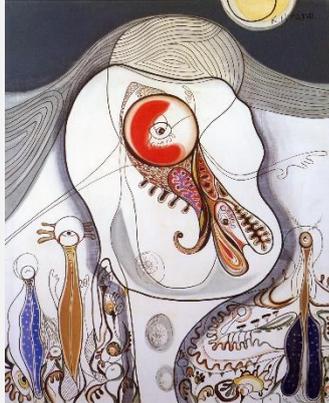
IV その他の事業

- (1) 団体向け研修・体験プログラム 14
- (2) 博物館実習生及び職場体験 14
- (3) 所蔵作品データベースの公開 14

II 展覧会

(1) 企画展 平野杏子展 生きるために描きつづけて

種別	企画展
会期	4月6日(土)～6月9日(日)
主催	平塚市美術館
協賛	神奈川中央交通株式会社
開館時間	9:30～17:00(入場は16:30まで)
休館日	月曜日(4月29日、5月6日は開館)、4月30日(火)、5月7日(火)
観覧料	一般800円、高大生500円
開催日数	56日
担当	勝山滋(当館学芸担当長)



(左)平野杏子「輪廻の章Ⅲ」1961年、(右)「南山遙遠」1980年

●内容

平野杏子(ひらのきょうこ)は1930年に伊勢原で生まれ、1954年から現在に至るまで70年間を平塚市で制作活動を行っています。

現在、女性の活躍推進が社会の課題となっていますが、画家が美術の道を志したのはいまだ女性作家が稀であった時期であり、結婚や育児と制作の両立という課題に向き合いながら画業を切り拓いていきました。また現在90代となった現在も生き生きと新たな画境を求めて制作する姿勢からは、現代の長寿社会のなかでいかに生きるかわれわれに範を示しているように感じます。

その画業は具象から抽象、平面から立体まで多彩ですが、われわれが太古から慈しみ根を張って折り生活してきた原初的な風土や歴史がテーマとなっています。あるいは共感する文学が裏打ちとなり、また平塚の出縄でのアトリエで感じた自然や、病いを得て夢に現れたイメージ、仏教的な教えや人々の信仰が表現されています。

さらに韓国・慶州で出会った磨崖仏の拓本は画家の大きな功績であり、また女性作家による美術団体「潮会」での活躍等、洋画壇で大きな役割を担ったほか、地元平塚に目を向ければ総合公園のモニュメント「トキオコシ」の設置に加え、アトリエでは近隣の画家や評論家が集い、その交流は平塚の文化振興の原動力となりました。

本展は平塚ゆかりの作家、平野杏子の集大成となる回顧展であり、その代表作や初公開の作品を含めたおよそ60点によりその画業を振り返ります。

●関連事業

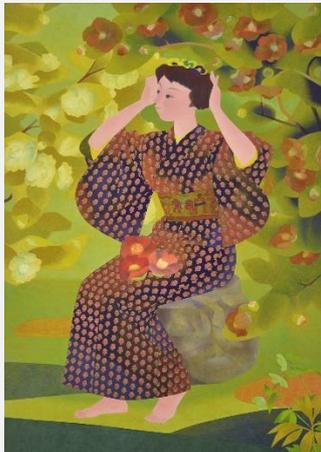
○担当学芸員によるギャラリートーク

日時：①4月20日(土)、②5月11日(土) 各日14:00～14:40

場所：展示室I(申込不要、要観覧券)

(2) 特集展 1950～60年代の日本画—造形への挑戦

種 別	特集展
会 期	4月6日(土)～6月2日(日)
主 催	平塚市美術館
開館時間	9:30～17:00(入場は16:30まで)
休 館 日	月曜日(ただし4/29、5/6は開館)、4/30(火)、5/7(火)
観 覧 料	一般200円、高大生100円
開催日数	50日
担 当	家田奈穂(当館学芸員)



北澤映月《花》1954年、当館寄託



加山又造《紅鶴》1964年、当館寄託【日本芸術文化振興会(国立劇場)蔵】

●内容

戦後まもなく、それまでの伝統的な日本画のあり方に危機感をつのらせた画家たちが、新たな表現を模索するようになりました。1948年には「世界性に立脚する日本絵画の創造を期す」という宣言のもと、「創造美術」(現・創画会)が結成されます。日本画の革新運動は、新興の美術団体のみならず既存の団体を含む日本画壇全体におよび、戦後に台頭してきた若い画家たちを中心に、1950年代から60年代にかけてさまざまな試行錯誤が重ねられました。日本画の伝統に拘泥せず、画壇に新風を吹き込もうとした画家たちが参照したのは、欧米の絵画作品でした。その堅牢な造形や油絵具のもつ力強いマチエール、あるいは当時注目を集めていた抽象表現が取り入れられるなど、「革新」の呼び声のもと、一時代を象徴する作風が生み出されました。結果として日本画は、同時代の洋画の造形に接近することになり、画材こそ違えども、日本画と洋画の造形的な境目があいまいになりました。

本展は、当館の所蔵品の中から創画会、日展、院展で活躍した日本画家を中心とした1950～60年代の作品のほか、同時期に制作された洋画を加えた約50点を展示することで、この時期の日本画の造形的な特徴の一端を明らかにしようとするものです。

●関連事業

○担当学芸員によるギャラリートーク

日時：①4月13日(土) ②5月12日(日) 各日14:00～14:40

場所：展示室Ⅱ ※申込不要、要観覧券

(3) 企画展 ザ・キャビンカンパニー 大絵本美術展〈童堂賛歌〉

種 別	企画展
会 期	7月6日(土)～9月1日(日)
主 催	平塚市美術館
開館時間	9:30～17:00 (入場は16:30まで)
特別協賛	タバタ、株式会社明治
協賛	神奈川中央交通株式会社
助 成	一般財団法人 地域創造
休 館 日	月曜日 (7月15日、8月12日は開館)、7月16日(火)、8月13日(火)
観 覧 料	一般800円、高大生500円
開催日数	50日
担 当	安部沙耶香 (当館学芸員)



童堂賛歌 メインビジュアル 2023年



ザ・キャビンカンパニー《脳想電撃招馬》
2018年、作家蔵 撮影：橋本大



作家のポートレート
撮影：橋本大

●内容

「ザ・キャビンカンパニー大絵本美術展〈童堂賛歌〉」を開催します。

2009年のユニット結成以来、40冊以上の絵本を出版しているザ・キャビンカンパニー。

『だいおういかのいかたろう』（鈴木出版、2014年）で日本絵本読者賞、『がっこうにまにあわない』（あかね書房、2022年）で第23回日本絵本賞を受賞するなど、数々の高い評価を得てきました。その活動は絵本の分野にとどまらず、ダンサー・振付家として国内外で活躍を続ける Co. 山田うんのダンス作品『オバケッタ』の舞台美術（2021年）や、歌手あいみょんのオファーにより「傷と悪魔と恋をした！」（2021年）のツアーパンフレットの制作に携わっています。また、NHK（Eテレ）の番組「おかあさんといっしょ」での「しりたガエルのけけちゃま」のキャラクターデザインを手がけるなど、目覚ましい活躍をみせています。

展覧会のタイトル〈童堂賛歌〉とは、本展のためにつくられたことばです。「飽きることなく何十回でも何時間でもすべり台で遊び続ける、子どもの時間のとらえ方や感覚に象徴される「童」と、本屋や薬局、駄菓子屋などの店名にも使われるお堂の「堂」＝「万物を受け入れる」という意味が組み合わせられています。本展は7つのテーマの部屋で構成され、まるで空間が大きな1冊の本になったような仕掛けが満載です。

関東の公立美術館で初となる本展では、ユニット結成15周年を記念して、活動初期から現在までの絵本原画400点に加え、立体造形、映像作品などを一堂にご紹介します。ザ・キャビンカンパニーの多様な魅力に満ちた作品を身体全体でお楽しみください。

●関連事業

○ザ・キャビンカンパニーによる絵本の読み語り

日時：7月13日（土）13:00-13:45

場所：ミュージアムホール ※申込不要、定員120名

○ザ・キャビンカンパニーによるアーティストトーク

日時：7月14日（日）13:00-13:45

場所：展示室 I ※申込不要、要観覧券

○ザ・キャビンカンパニーのサイン会

日時：7月13日（土）、14日（日）各日14:00-15:00

場所：テーマホール ※申込不要、図録をお買い求めの方に限る

○当館学芸員によるギャラリートーク

日時：7月27日（土）、8月10日（土）各日14:00-14:40

場所：展示室 I ※申込不要、要観覧券

○図書館ボランティアによるおはなし会（予定）

日時：7月、8月中に各1日 11:00-11:30

場所：展示室 I ※申込不要、要観覧券

○ぬりえコーナー

日時：展覧会会期中の9:30-16:30

定員・参加費：なし

場所：テーマホール

○「ザ・キャビンカンパニー 大絵本美術展<童堂讃歌>」まちなか展示@ひらしん平塚文化芸術ホール

会期：8月2日（金）～22日（木）

休館日：8月19日（月）

会場：ひらしん平塚文化芸術ホール エントランス ギャラリー

観覧料：無料

○「ザ・キャビンカンパニー 大絵本美術展<童堂讃歌>」まちなか展示@平塚市中央図書館

会期：8月2日（金）～22日（木）（予定）

休館日：月曜日（ただし8/12は開館）、8/13（火）

会場：平塚市中央図書館 1階エントランスロビー

観覧料：無料

(4) 特集展 つながるコレクション+新収蔵品展

種 別	特集展
会 期	6月8日(土)～9月8日(日)
主 催	平塚市美術館
開館時間	9:30～17:00(入場は16:30まで)
休 館 日	月曜日(ただし祝日は開館し、翌日休館)
観 覧 料	一般200円、高大生100円
開催日数	80日
担 当	勝山滋(当館学芸担当長)



三岸好太郎《海洋を渡る蝶》1940-45年、斎藤史門《陸にあがった錨》2014年、村上早《嫉妬—どく—》、2020年

●内容

数年来の新型コロナウイルス感染症の流行は、人と人との関係を疎遠にし、人々の生活様式まで変質させてきました。一方、元来われわれの社会や地域は、様々なつながりのなかで成り立ってきました。「人間」という文字が人と人との間と書くように、交流しつながりをもつことは重要であり、改めて今、様々な関係性のなかで現代社会を見つめ直すことが求められていると言えるのではないのでしょうか。

本展と同時開催となる作家、キャビンカンパニーは「夫婦」というつながりがありますが、収蔵作品を見渡すと「父子」や「師弟」、「仲間」といった作家の関係、さらに「個人・社会」、「人間・自然」、作品どうしの共通点など様々な「つながり」を見出すことができます。こうした切り口に新たな光を当てること、収蔵作品の新たな魅力を発見し、さらに広くは地域や社会の来し方行く末を考えるよすがとしたいと思います。

こうした趣旨のもと、30作家、約80点の作品を全4章にわけ構成します。その内訳は1. 序章(人間・自然)、2. 人と人とのつながり、3. 緞帳からつながるコレクション(個人・社会)、4. 新収蔵品展です。

序章は、人間と自然のつながりをテーマとし、外出を控えてきたわれわれが戸外に出、解放感と明るい陽光のもと自然に目を向け、新たにその空気感や季節を発見していくような広がりのある作品を紹介し、またSDGsの観点を含め、環境問題をテーマとした作品を展示します。

2章は、様々な人と人とのつながりをテーマとして、家族を描いた作品、師弟、ともに研鑽する仲間、父子や夫婦といった関係にスポットをあてます。近親者を描き愛情が感じられる作品にはじまり、大磯に住んだ実業家の赤星家の関係者を描いた黒田清輝、安田鞞彦の作品、萬鉄五郎のもとで研鑽し湘南の美術を彩った森田勝、原精一、鳥海青児、山下大五郎を取り上げます。

3章は、地域とのつながりがある作品として、旧市民センターの緞帳として親しまれ、長く本庁舎に掲出されてきた本荘赴「平塚風景」の原画、中央公民館大ホールの緞帳原画である工藤甲人「アンドロメダ」、平塚駅南口に設置された澤田政廣「人魚の像」の原画からはじめ、高良真木「ふしぎなおはなし」の絵本原画、岸田劉生による雑誌「棋道」原画を展示します。またこのたび姉妹都市を締結したリトアニアとのつながりを紹介するコーナー展示を行い、リトアニア生まれのジョナス・メカスの展示・上映を行います。

4章では、2023年度に新たに収蔵した作品をコーナー展示します。こうした収蔵作品も、所蔵家と美術館の信頼関係やつながりから収められたもので、市内の企業、湘南アルテックからの寄付金によって購入が叶った村上早作品などもお披露目します。

さまざまにつながるコレクションをどうぞお楽しみください。

●関連事業

○ジョナス・メカスの上映会（仮）

○担当学芸員によるギャラリートーク

日時：会期中の土日のうち2日間 各日 14:00～14:45

場所：展示室Ⅱ（申込不要、要観覧券）

(5) 企画展 落谷虹児展

種 別	企画展
会 期	10月5日(土)～11月24日(日)
主 催	平塚市美術館
特別協力	落谷虹児記念館(予定)
協 賛	神奈川中央交通株式会社
開館時間	9:30～17:00(入場は16:30まで)
休 館 日	月曜日(祝日の場合は開館、翌火曜日休館)
観 覧 料	一般 800円、高大生 500円
開催日数	44日
担 当	家田奈穂(当館学芸員)



《睡蓮の夢カバー原画》1924年、落谷虹児記念館



《旅の絵だより 出帆Ⅱ》『小令嬢』1-4口絵原画
落谷虹児記念館

●内容

当館では、これまで多くの県内ゆかりの近・現代の作家の展覧会を開催してきました。本展もその一環です。

落谷虹児(1898-1979)は、現在の新潟県阿賀野市で生まれ、1913年に日本画家を目指して上京しますが、竹久夢二の紹介で少女雑誌の挿絵を描くようになると、瞬く間に時代の寵児となりました。1925年絵を学ぶためにパリに留学し、サロン入選や個展の開催など、画家としての第一歩を踏み出します。しかし、生活のために志半ばで帰国し、その後は再び出版界における花形作家として雑誌の仕事数を多く手がけました。いくつもの少女雑誌に多様な作風を展開した虹児は、戦前に人気の絶頂を迎えます。やがて戦争がはじまると童話やの絵本の仕事に取り組み、少女向けの仕事から離れて新たな境地を開拓しました。

1944年に戦況がひっ迫すると、虹児は、現在の新宿区下落合から、溪流釣りで土地勘のあった酒匂川上流の神奈川県山北町の禅寺に一家で疎開します。その後、移築した小さな家に住み、1954年に町田市の玉川学園前に転居するまでの10年間を同地で過ごしました。晩年は、個展を中心に可憐な少女像を発表して変わらぬ人気を博し、1979年に80才でその生涯を閉じました。

本展では、初期の雑誌表紙や挿絵、パリ時代の作品、絵本や童話の挿絵などを一堂に会し、およそ60年におよぶ虹児の画業を回顧します。大正から昭和戦前にかけて、文化や芸術が大衆のものとして浸透していく過程で、出版界の花形作家・落谷虹児が果たした役割がいかに大きいものであったかを感じ取っていただければ幸いです。

●関連事業

○担当学芸員によるギャラリートーク

日時：会期中の土日のうち2日間 各日 14:00～14:45

場所：展示室 I（申込不要、要観覧券）

(6) 特集展 「おしゃべり美術館 ひらびあ一つま〜れ 10 周年展」 (仮)

種 別	特集展
会 期	9月21日(土)~2024年2月16日(日)
主 催	平塚市美術館
開館時間	9:30~17:00(入場は16:30まで)
休 館 日	月曜日(ただし9月23日、10月4日、2025年1月13日は開館、翌日休館)、年末年始(12月29日~2025年1月3日)
観 覧 料	一般200円、高大生100円
開催日数	123日
担 当	江口恒明(当館学芸員)、浅野泰恵子(当館学芸員)



工藤甲人《樹木のうた》1956年 当館蔵



伊藤彬《青幻記》1976年 当館蔵

●内容

平塚市美術館では2015年に「対話による美術鑑賞事業」をスタートさせ、市民参加者「ひらびあ一つま〜れ」のメンバーとともに、平塚市内の小学生と学校や美術館で、おもに所蔵作品を用いて美術鑑賞する活動を続けてきました。10年目をむかえる今年、対話型鑑賞とこれまでの活動を紹介する展覧会を開催いたします。

いわゆる対話型の作品鑑賞は1980年代にニューヨーク近代美術館で開発されたVTS(Visual Thinking Strategies)を嚆矢とします。作品のことをよく知る誰かから説明を受けるのではなく、鑑賞する人がじっくりと作品をみて、少人数のグループで一緒に鑑賞する他の人との対話を通じてそれぞれの人が解釈を構成し、目の前の作品の核心とその魅力に迫っていきます。鑑賞する人自身が自分の中に意味や知識を構築していくプロセスととらえる構成主義の学習観にもとづいた鑑賞方法です。

美術に関する知識を必要としない、10歳前後の子ども対象のプログラムとして考案されたものですが、大人が見慣れた絵をみても、新しい発見をとまったり、解釈を更新することが起こり得ます。イメージそのもの、あるいは表現のもつ力を再認識するとともに、鑑賞といういとなみが一個人の中で完結するものではなく、一続きのつながりとして社会に開かれていることにも気づかされます。

そのような特徴をもつ対話型美術鑑賞を続けてきた「ひらびあ一つま〜れ」の活動を紹介するため、本展では事業の中で用いてきた所蔵作品を中心に約40点を選び、対話のきっかけとなるよう5つのテーマに分けて展示します。また、平塚市内の小学生と地域の方々に支えられた活動であることから、あわせてこの中に湘南にゆかりのある他所所蔵の作品も展示します。

本展の特色に鑑み、ふだんは注意を促されますが、原則として展示室内で作品を見て、作品に関するおはなしを自由にしていだける展覧会とします。美術作品の鑑賞方法は一様ではありませんし、美術作品との付き合いは個人の一生の楽しみともなります。それぞれの鑑賞をお楽しみいただければ幸いです。

●関連事業

○鑑賞会「おしゃべり美術館」

日時：未定 11：00～12：00（会期中4回程度）

場所：展示室Ⅱ（要観覧券）

内容：ひらびあ一つま～れのメンバーがファシリテーターとなって対話型の鑑賞を体験していただきます。当日は展示室に常駐し活動内容の説明などもおこないます。

○シンポジウム「ひらびあ一つま～れの活動を振り返る・対話型鑑賞と学校連携事業」

日時：11月30日（土） 13：00-16：30

場所：ミュージアムホール

内容：【基調講演】「学校教育における対話型鑑賞の重要性」講演者未定。（申込不要・先着順）

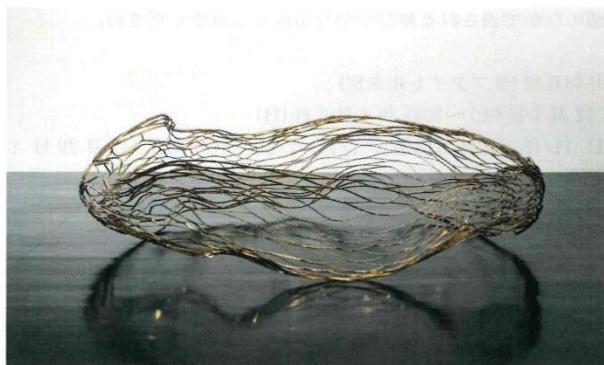
【対談】「学校教育と美術館の連携」学校関係者、アートNPO、美術館スタッフなどと、地域の美術館における鑑賞の意義、これまでの活動の成果と今後の展望について対談します。

（申込不要・先着順）

【対話による美術鑑賞体験】ひらびあ一つま～れによる鑑賞会。対談終了後、希望者に展示室の作品で対話による鑑賞を実施します。（申込不要・要観覧券）

(7) 特集展 ロビー展 古井彩夏

種 別	特集展
会 期	12月5日(火)～2024年4月7日(日)
主 催	平塚市美術館
開館時間	9:30～17:00
休 館 日	月曜日(ただし1月13日、2月24日は開館)、1月14日、 2月25日、年末年始(12月29日(日)～1月3日(金))
観 覧 料	無料
開催日数	99日
担 当	勝山滋(当館学芸担当長)



《Bell》2016年、《ベアリング》2022年

●内容

2024年度平塚市美術館ロビー展として「古井彩夏展」(仮称)を開催します。

彫刻家・古井彩夏(ふるいあやか)は1988年東京生まれ。2009年、女子美術大学在学中に鉄を素材とした作品の制作をはじめ、2011年、同校の立体アート学科卒業に際し、卒業制作が女子美術大学美術館賞を受賞。同年神奈川県展において大賞を受賞。2013年同大学院を修了ののち、各地での個展のほか内外のグループ展に参加。このほか東京都内各所に野外彫刻を制作、設置するなど活躍し、現在女子美術大学非常勤講師。

古井作品は鉄を素材とするほか、近作ではステンレスを素材として細いステンレス板を切り取り、その切断面を高熱で焼き、生じたゆがみが生み出す軽やかな曲線に注目した伸びやかな造形を示しています。

ロビー展は、陽光のそそぐ広いテーマホールを舞台として観覧無料で開催される冬から春にかけての展覧会であり、若手作家の登竜門として今回で18回目を数えます。

公立美術館初の個展となる本展では、作家の新作を含めた約16点によってその世界観を紹介するとともに、湘南の気や空気感のなかで表される伸びやかな造形をご堪能ください。

●関連事業

○アーティストトーク

講師：古井彩夏氏(彫刻家)

日時：会期中の土日のうち2日間 各日14:00～14:30

場所：テーマホール(申込不要)

Ⅲ 教育普及

(1) 令和6年度実施プログラム

17プログラムを実施予定

担当：江口恒明(当館学芸員)、浅野泰恵子(当館会計年度任用職員)、小林朋子(当館会計年度任用職員)、道下佳子(当館会計年度任用職員)

NO	講座名	講師	実施日	材料費	対象	参加者数
1	体験アートセラピー 親子でパステルワーク～笑顔のカードを作ろう～(仮)	福山恵美子(アートセラピスト)	4月29日(月・祝)	1組500円	親子(小・中学生)	12組24名
2	赤ちゃんアート5月	富田めぐみ※	5月24日(金)	1組500円	親子(1～2歳)	15組30名
3	バックヤードツアー	当館学芸員	未定	無料	未定	未定
4	キッズアート6月	富田めぐみ※	6月12日(水)	1組500円	親子(2～4歳)	15組30名
5	七夕関連ワークショップ染色講座	山田麻緒(美術作家)	6月22日(土) 6月29日(土)	未定	未定	未定
6	赤ちゃんアート7月	富田めぐみ※	7月2日(火)	1組500円	親子(1歳～2歳)	15組30名
7	キッズアート8月	富田めぐみ※	8月22日(木)	1組500円	親子(2～4歳)	15組30名
8	美術館であそぼ	對木裕里(彫刻家)	8月3日(土)、 4日(日)	未定	子ども～一般	未定
9	美術館であそぼ	渡辺望(美術作家)	8月3日(土)、 4日(日)	未定	子ども～一般	未定
10	未就学児向けワークショップ①	hoppe(造形教室主宰)	8月4日(日)	未定	親子(4～6歳)	未定
11	未就学児向けワークショップ②	hoppe(造形教室主宰)	8月4日(日)	未定	親子(4～6歳)	未定
12	中高生ボランティアによるワークショップ①	中高生ボランティア	8月3日(土)	無料	小学生	未定
13	中高生ボランティアによるワークショップ②	中高生ボランティア	8月4日(日)	無料	小学生	未定
14	おしゃべり美術館	ひらびあーつま～れ(鑑賞ボランティア)	8月3日(土)、 4日(日)	無料	子ども～一般	未定
15	図書館ボランティアによる美術作家の絵本おはなし会	平塚市中央図書館ボランティア	8月3日(土)	無料	未定	未定
16	赤ちゃんアート9月	富田めぐみ※	9月6日(金)	1組500円	親子(1～2歳)	15組30名
17	認知症関係者のためのアートセラピー(仮)	福山恵美子(アートセラピスト)	未定	未定	認知症当事者・介護者	未定

※NPO法人赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会代表理事

(2) スクールプログラム

児童・生徒向けプログラム 1プログラムを実施予定 ※依頼を受け次第実施

教員向けプログラム 2プログラムを実施予定 ※依頼を受け次第実施

担当：江口恒明(当館学芸員)、浅野泰恵子(当館会計年度任用職員)、小林朋子(当館会計年度任用職員)、道下佳子(当館会計年度任用職員)

NO	講座名	講師	実施日	対象	参加者数
1	教員向け 対話による美術鑑賞体験会	当館学芸員	7月27日(木)	小・中・高・特別支援学校の教職員	未定
2	中学・高校生のワークショップボランティア	当館学芸員	8月1日(木) 8月3日(土) 8月4日(日)	中高生	未定
3	教員向け実技講座	山田麻緒氏(美術作家)	8月中	小・中・高・特別支援学校の教職員	未定

(3) 対話による美術鑑賞事業・ボランティア育成

対話による美術鑑賞授業 令和6年4月に希望校を募集し依頼を受け次第実施予定

担当：江口恒明(当館学芸員)、浅野泰恵子(当館会計年度任用職員)、小林朋子(当館会計年度任用職員)、道下佳子(当館会計年度任用職員)

NO	学校名	準備日	学校実施日 (事前授業日)	来館授業日	学年	クラス数	参加人数
1	未定						

事前授業のみの授業も実施します。授業の実施はひらびあ一つま〜れのメンバーが担当します。

● ボランティア育成のための研修等を実施します。

対話による美術鑑賞ボランティア(ひらびあ一つま〜れ)9期生の育成、及び新規加入の10期生20名程度の育成を実施予定です。また、10期生募集のための体験会、ボランティア同士の交流やミーティングを目的としたひらびcaféを実施します。

9プログラムを実施予定。

NO	講座名	講師	実施日	参加人数
1	9期実践研修	三ツ木紀英 (ARDA)	4月10日(水)	未定
2	9期実践研修	三ツ木紀英 (ARDA)	5月10日(金)	未定
3	9期実践研修	三ツ木紀英 (ARDA)	6月1日(土)	未定
4	10期募集体験会1回目	当館学芸員	11月中旬	未定
5	10期募集体験会2回目	当館学芸員	12月上旬	未定
6	10期基礎研修1回目	三ツ木紀英 (ARDA)	2月8日(土)	未定
7	10期基礎研修2回目	三ツ木紀英 (ARDA)	2月15日(土)	未定
8	10期実践研修	三ツ木紀英 (ARDA)	3月1日(土)	未定
9	10期実践研修	三ツ木紀英 (ARDA)	3月15日(土)	未定

(4) アートカードの貸出

平塚市美術館を代表する所蔵作品48点のカードと遊び方の説明書を合わせたアートカードセットを、学校向け教材として無料貸出を行います。

IV その他の事業

(1) 団体向け研修・体験プログラム

要望があれば実施してまいります。

(2) 博物館実習生及び職場体験

●博物館実習生の受け入れ

当館の活動に携わることで学芸員の職務を理解することを目的として、美術を専攻する博物館学実習生を受け入れ、6月から12月まで実習を実施します。

●中堅教諭等資質向上研修 社会体験研修の受け入れ。

●中学生職場体験及び高校生等の受け入れ

(3) 所蔵作品データベースの公開

WEB上に公開している所蔵作品のデータベースについて、今後も画像データを充実させてまいります。

日本語サイト：<https://jmapps.ne.jp/hiratukabi/>

英語サイト：https://jmapps.ne.jp/hiratukabi_en/